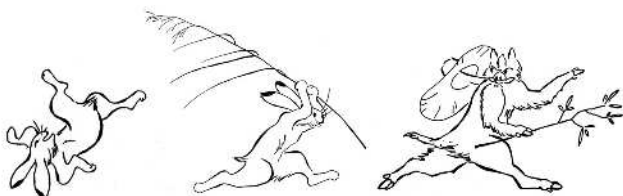




○令和5年度鳥獣被害防止総合対策事業の年度当初スケジュールについて

本スケジュールは3月現在の予定です。今後変更が生じる場合もありますが、ご了承ください。

日程	関係者	内容	備考
4/4 (火) 頃	国→県	割当内示①	R5 当初予算 (推進事業、整備事業、捕獲事業)、R4 補正予算繰越 (整備事業【豊田、新城北設】)
4/6 (木) 頃	野生イノシシ対策室→各農林水産事務所→事業実施主体	内報①	割当内示①関係 <u>※ただし、R5 当初予算 (整備事業) は除く</u>
4/7 (金) 頃	事業実施主体→各農林水産事務所→野生イノシシ対策室	事業実施計画の承認申請	
4/10 (月) 頃	野生イノシシ対策室→各農林水産事務所→事業実施主体	事業実施計画の承認及び割当内示	内報①関係 ※特認協議がない事業実施主体
4/10 (月) 頃以降の日付で	事業実施主体→各農林水産事務所→野生イノシシ対策室	交付決定前着手届の提出	交付決定前に事業着手可能に！
4月下旬頃	県→国	特認協議①	内報①関係
4月下旬頃	国→県	割当内示②	R4 当初予算繰越 (整備事業)
4月下旬頃	野生イノシシ対策室→各農林水産事務所→事業実施主体	内報②	割当内示①②関係 <u>R5 当初予算 (整備事業)、R3 当初予算繰越 (整備事業)</u>
5月上旬頃	事業実施主体→各農林水産事務所→野生イノシシ対策室	事業実施計画の変更承認申請	
5月上旬頃	野生イノシシ対策室→各農林水産事務所→事業実施主体	事業実施計画の変更承認及び変更割当内示	内報②関係 ※特認協議がない事業実施主体
5月上旬頃以降の日付で	事業実施主体→各農林水産事務所→野生イノシシ対策室	交付決定前着手届の提出	交付決定前に事業着手可能に！
5月上旬頃	国→県	(特認の) 協議回答	内報①関係
5月上旬頃	野生イノシシ対策室→各農林水産事務所→事業実施主体	事業実施計画の承認及び割当内示	内報①関係 ※特認協議完了したところ
5月上旬頃以降の日付で	事業実施主体→各農林水産事務所→野生イノシシ対策室	交付決定前着手届の提出	交付決定前に事業着手可能に！
5月中旬頃	事業実施主体→各農林水産事務所→野生イノシシ対策室	交付申請①	全事業実施主体 <u>※ただし、特認協議が完了していない場合は除く</u>



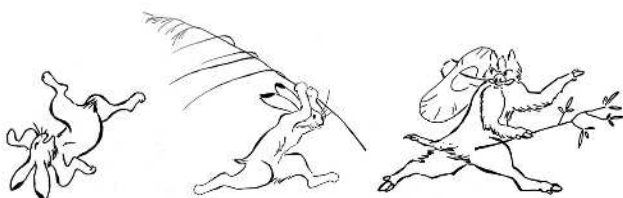


5月中旬頃	県→国	特認協議②	内報②関係
5月下旬頃	国→県	(特認の)協議回答	内報②関係
5月下旬頃	野生イノシシ対策室→各農林水産事務所→事業実施主体	事業実施計画の変更承認及び変更割当内示	内報②関係 ※特認協議完了したところ
5月下旬頃	事業実施主体→各農林水産事務所→野生イノシシ対策室	交付決定前着手届の提出	交付決定前に事業着手可能に！
5月下旬頃	県→国	交付申請①	
6月上旬頃	事業実施主体→各農林水産事務所→野生イノシシ対策室	交付申請②	5月中旬頃の交付申請①で提出していない事業実施主体
6月中旬頃	国→県	交付決定①	
6月下旬頃	野生イノシシ対策室→各農林水産事務所→事業実施主体	交付決定①	
7月上旬頃	県→国	交付申請②	
7月下旬頃	国→県	交付決定②	
8月上旬頃	野生イノシシ対策室→各農林水産事務所→事業実施主体	交付決定②	

詳細なスケジュールは
新年度に改めてお知らせするバエ！



(NS)





○2022 年度指定管理鳥獣捕獲等事業(イノシシ)の実施結果について(速報)

愛知県では、農作物被害や野外の豚熱ウイルス濃度低減のため、イノシシの捕獲を進めており、2022 年度は渥美半島地区、豊田地区、犬山・春日井地区の3 地区で捕獲事業を実施しました(図1)。

捕獲事業全体の捕獲頭数について、2022 年度は2021 年度と同程度でしたが、地域別では、渥美半島地区で増加した一方で、豊田地区、犬山・春日井地区では減少し、生息密度の変動を見るための指標である捕獲効率*については、渥美半島地区で横ばい、豊田地区、犬山・春日井地区では減少しました(表1)。

2019 年度以降県内の養豚場で豚熱の陽性は確認されていませんが、2020 年度までは減少傾向があったイノシシの捕獲頭数については、2021 年度から増加に転じ、野生イノシシの豚熱陽性個体についても、2022 年度は2021 年度と比べ増加しているなど、未だに気を抜けない状況です。引き続きイノシシの捕獲を強化していきます。



図1 2022 年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施地域(イノシシ)

表1 2022 年度指定管理鳥獣捕獲等事業実施結果(速報)

実施地域	捕獲頭数(頭)	目標頭数(頭)	捕獲効率(わな罠) (頭/基・日)
渥美半島地区	47 (35)	50 (50)	0.0160 (0.0161)
豊田地区	20 (30)	50 (60)	0.0067 (0.0127)
犬山・春日井地区	3 (8)	40 (30)	0.0021 (0.0105)
計	70 (73)	140 (140)	

補足：括弧内の数字は昨年度実績を示す。

※捕獲効率 = 捕獲頭数 ÷ 捕獲努力量(わなの基数×稼働日数)

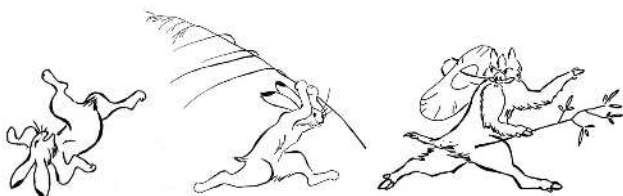
(NK)

○イノシシの捕獲頭数について【2022 年度第3 四半期速報】

県内の有害鳥獣捕獲及び指定管理鳥獣捕獲等事業により捕獲されたイノシシの頭数について、2022 年度第3 四半期(10 月から12 月まで)がとりまとめられました(表1)。

第3 四半期の県全体の捕獲頭数について、2022 年度(速報値)は1,590 頭と前年度の1,748 頭と比べ、減少しました。地域別では、西三河地域では前年度と比べ減少しましたが、それ以外の地域では前年度と同程度または増加しました(図1)。

第3 四半期末時点の県全体の捕獲頭数の累計値について、2022 年度(速報値)は5,308 頭と、前





年度の4,963頭と比べ、増加しており、直近3年間は増加が続いています。地域別では、西三河地域では減少していますが、それ以外の地域では増加しており、特に新城設楽地域では、前年度比で約1.8倍でした(図2)。

表1 直近3年度の地域ごとの野生イノシシの捕獲頭数 (頭)

	第3四半期			第3四半期までの累計		
	2022年度 【速報】	2021年度	2020年度	2022年度 【速報】	2021年度	2020年度
尾張地域	207	202	176	697	595	610
西三河地域	861	1,161	573	3,087	4,173	2,711
東三河地域	145	129	129	661	469	636
新城設楽地域	377	256	111	863	475	335
計	1,590	1,748	989	5,308	4,963	4,292

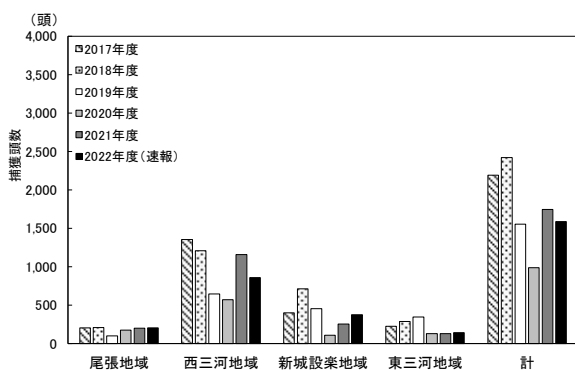


図1 野生イノシシの捕獲頭数の推移(第3四半期)

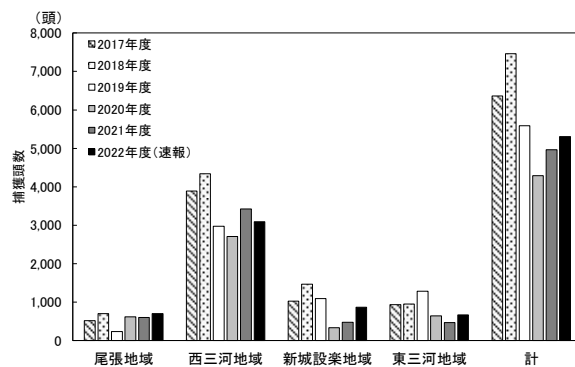


図2 野生イノシシの捕獲頭数の推移(第3四半期時点累計値)

(NK)

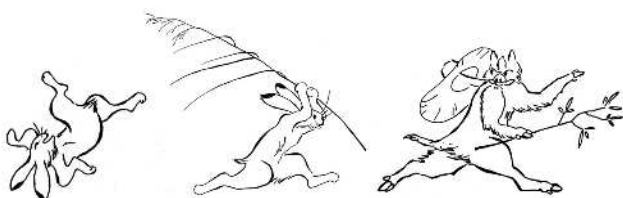
○イノシシにワクチンを食べさせろ！ その4

～10大成果第1位！ コンクリートブロック利用法～

2022年度の野生イノシシへの豚熱経口ワクチン散布事業が2月で完了し、1年間で15市町にのべ3,204地点64,080個を散布しました。市町村をはじめ、関係各所の皆様、御協力ありがとうございました。2023年度は4月、9月、11月、1月の年4回、延べ4,000地点80,000個を散布する計画です。今後もよろしくお願いいたします。

①農業総合試験場10大成果第1位のアイデア

経口ワクチン散布の1番の課題は、イノシシがワクチンを食べる前に、タヌキやアライグマ等の中型獣や、カラスが食べてしまうことです。と言うのも、イノシシの生息頭数よりも中型獣やカラスの生息頭数の方が多いので、先にイノシシが気付く確率の方が低いです。毎日餌付けして





イノシシを誘引していれば話は別ですが。

そこで、イノシシに限定的にワクチンを食べさせる方法として、「イノシシは力持ち」に着目して、コンクリートブロックの穴の中にワクチンを入れれば、約 10kg のブロックを中型獣は倒せないし、カラスは穴の奥までくちばしが届かなく、イノシシだけが吹き飛ばしてワクチンを食べるのではと、農業総合試験場が考案しました。

方法と効果については後述しますが、雑談の中で出たアイデアがここまで大きくなるとは思いませんでしたが、技術の普及に必要である「効果的」で「簡単」で「安い」を全て網羅しているので、選定委員の高評価を得られたのでしょう。1位の技術に泥を塗らないためにも、しっかりと検証していきます！

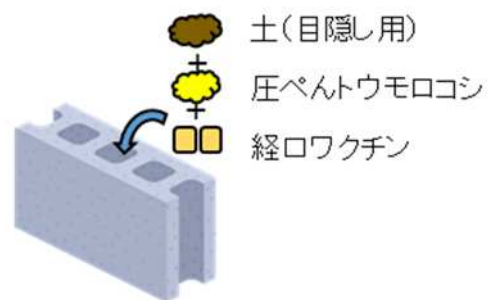
②コンクリートブロック利用法の現地試験

【後期 1 回目散布（9 月）】

最初は、ブロックの穴の中にワクチンを入れて、誘引餌（トウモロコシ）を入れて、9月のワクチン散布に合わせて瀬戸市、岡崎市、豊川市で現地試験をしてみました。すると瀬戸市では、さっそくイノシシがブロックを倒して食べてくれました！瀬戸市のイノシシはお利口です。一方で、タヌキやアライグマは少し掘って帰ってくれました。ただ、ブロックに警戒心を示して倒さず、回収時には穴の中のエサが固まって、倒してもワクチンが転がり出なくなってしまうため、長期間使うには不向きでした。



①後期 1 回目

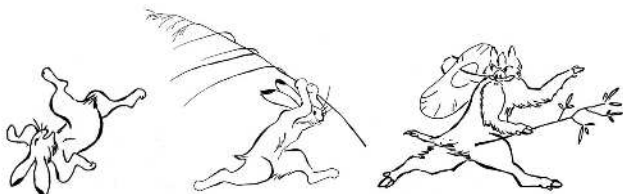


ブロックを倒してワクチンを食べるお利口なイノシシ

【後期 2 回目散布（11 月）】

11月のワクチン散布では、エサの固まりを防ぐために、米ぬかを敷いて、ブロックを立てて、穴にワクチンを入れる方法で現地試験をしました。

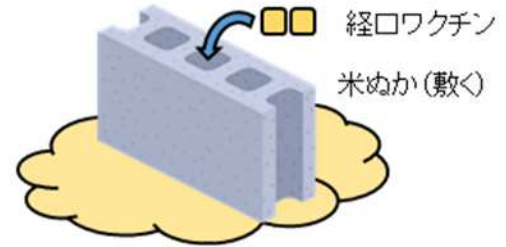
瀬戸市では、さっそくイノシシがブロックを倒して食べてくれました！瀬戸のイノシシは優秀です。ところが岡崎市では、タヌキは帰ってくれましたが、アライグマが手を突っ込んでワクチンを盗み出してしまいました。いやはや、岡崎は魔窟です。





ワクチンを盗み出す魔窟（岡崎）のアライグマ

②後期2回目



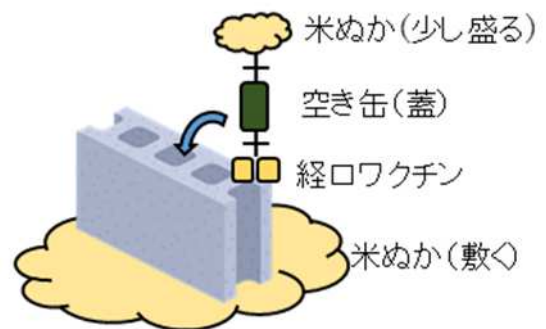
【後期3回目散布（1月）】

アライグマ対策として、コンクリートブロックの穴の大きさが190ml コーヒー缶の直径とほぼ同じであるため、穴に缶を突っ込んでみました。1月のワクチン散布では、米ぬかを敷いて、ワクチンを置いて、穴を塞いだブロックを乗せる方法で現地試験をしました。すると、瀬戸市ではさっそくイノシシがブロックを倒して食べてくれました！やはり瀬戸のイノシシは優秀です。豊川市のイノシシも食べてくれました。岡崎市では最後まで警戒していました。肝心のアライグマについては、ブロックの上に乗るが手を突っ込むこともできずに帰って行きました。成功です。



コーヒー缶を突っ込んだコンクリートブロック

③後期3回目

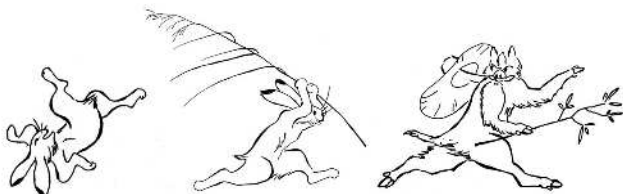


③現在の方法

これらの現地試験から、米ぬかを敷いて、ワクチンを置き、穴を塞いだブロックを置く方法が、現在最も有効な設置方法です。

試験では1地点10か所に散布するうち1か所をブロックに替えるという方法で行いましたが、これでは最大10%の摂取率向上にしかならないため、広い散布地点であれば2～3個置いても

愛知県農業水産局農政部
農業振興課野生イノシシ対策室
お問い合わせ TEL052-954-6726





よさそうです。また、穴を塞ぐのにコーヒー缶を使っていますが、元から片面が塞がれているブロック（ブロック塀の最上段用）でも代用可能かと思えます。野生イノシシ対策室では、とりあえず50個のブロックを現地に置き、次年度4月の散布から本格運用していきます。

④コンクリートブロック利用法の課題

当たり前ですが、斜面に置くと中型獣でも倒してしまいます。また、山の斜面では、イノシシがブロックを谷底まで吹っ飛ばして回収不能になってしまうので、平らな広い場所が向きます。

ブロックを倒しても、出てきたワクチンをエサと認識しておらず、食べないイノシシも見られました。埋めているワクチンは食べるのに、転がっているワクチンを食べないのは、畑のイモは食べるのに、箱わなに置いたイモは食べない心境と同じでしょうか。国がワクチンを改良中とのことなので、リリース待ちです。

また、コンクリートブロックを警戒しているイノシシが各地域で見られました。慣れればエサを入れなくてもブロックを倒すようになるので、時間をかければ解決できるかもしれません。新しいブロックは異物感アリアリなので、警戒心を少しでも消せるように、泥などを塗りたくって検証しています！



ブロックを倒してワクチンを食べずに帰るイノシシ（農総試提供）

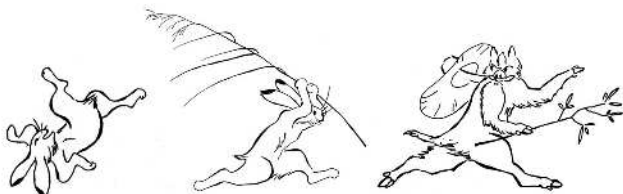
(A S)

○退職に寄せて – 鳥獣害に携わったの13年間 –

愛知県農業水産局農政部農業振興課 野生イノシシ対策室 室長 小出 哲哉

○はじめに

定年を迎えるにあたり寄稿する機会をくださりありがとうございます。鳥獣害の普及指導員2年、農業革新支援専門員3年、研究4年4か月、県庁に3年8か月と合計13年間にわたり、大変楽しく充実した鳥獣害に携わる時間を過ごさせていただきました。ここでは思い出話で恐縮ですが私の鳥獣害にまつわる話をさせていただきます。



愛知県農業水産局農政部
農業振興課野生イノシシ対策室
お問い合わせ TEL052-954-6726



○鳥獣害との出会い

鳥獣害との出会いは、2009年8月群馬県での3泊4日の鳥獣害研修です。朝は5時から、夜は9時頃まで、その後は飲みながら12時頃までと、研修生でわいわい議論し、飲み明かした毎日でした、今までの研修の中で一番充実した、楽しく、思い出深いものです。その研修で鳥獣害対策とはどんなものかを初めて知りました。しかし、これが私のその後の人生を左右する大きな岐路となったのです。

○初めての普及指導員、鳥獣害担当としてのスタート

2010年、新城設楽農林農業改良普及課新城駐在室、兼務で西三河普及課、豊田加茂普及課の鳥獣害専任の普及指導員となりました。この異動はまさに青天の霹靂で、どうして私が？と思いましたが、前年8月に群馬県での3泊4日の鳥獣害研修を受けたことを思い出しました。朝は5時から夜は9時頃までのプログラムで、その後は飲みながら12時頃まで研修生同士でわいわい議論し、飲み明かし、今まで経験した研修の中で一番充実した、それはそれは楽しい研修でした。「鳥獣害は面白いわ」とは思いましたが、まさか私のその後の人生を左右するとはこの時は知る由もありませんでした・・・。

鳥獣害の知識はこの4日間の研修しかありません。その上、普及指導員の職も初めて・・・。さらに鳥獣害専任の普及指導員は愛知県で初めてできた職とのこと。責任の重大さを感じ、不安でいっぱいでした。資料も何もない、対象者がわからない、聞く人もいません。そんな中で始めたのが、センサーカメラを設置し、毎日イノシシの映像を撮って、イノシシを観察することです。イノシシの生態を教えてくれたのは誰でもない、センサーカメラでした。「イノシシのことはイノシシから学べ」ということを学びました。それと同時に、地域リーダーの方々にもかなり助けていただきました。被害状況を教えてもらったり、イノシシが捕獲されたら呼んでもらってと殺の手伝いをしながら捕獲技術を学んだりして、やっと軌道に乗り始めたころ、鳥獣害専任普及指導員の職そのものが無くなってしまったのです。

○罾の開発も手掛けた鳥獣害担当 農業革新支援専門員の3年間

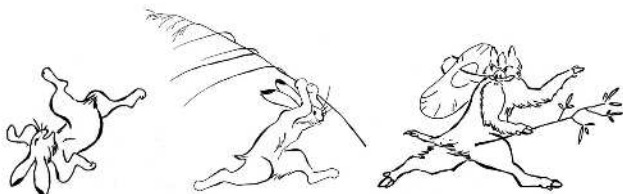
次は2012年に農業総合試験場の広域指導室の鳥獣害担当になりました。鳥獣の被害が拡大し、全県をみる必要がでてきたからです。鳥獣害担当の農業革新支援専門員も初めてできた職で、ここでも前任者がいないため、自分が必要、良いと思うことから行っていきました。農業革新支援専門員としての本来の仕事はさておき、警戒心の強いイノシシを誰でも簡単に短期間で捕獲できる全方位開放型囲い罾の「おりべえ」を開発したのもこの時期です。

岡崎市夏山町(旧額田郡額田町)に家を引っ越したのもちょうどこの頃です。イノシシ、シカ、サルが頻繁に出る地域です。対策をしないと庭や畑の農作物や果物はすぐに被害にあってしまいます。そのため、鳥獣害対策を家の庭、裏山でせざるを得ません。この実践が強みになりました。ここまでなんとかやって来られたのも生活の中で実際に鳥獣害対策をしてきたからだと思っています。「鳥獣害のために山の中に引っ越したの？」とよく聞かれますが、本当に“たまたま”です。

○共同研究中心だった鳥獣害研究

その後、2015年に農総試の病害虫研究室に異動となり、鳥獣害の研究を始めました。愛知県は

愛知県農業水産局農政部
農業振興課野生イノシシ対策室
お問い合わせ TEL052-954-6726





今まで鳥獣害の研究を行っておらず予算ゼロからの出発でした。そのため共同研究を中心に行いました。企業と一緒に仕事するのは初めてで、新鮮でしたし、企業の足回りの良さを感じました。2017年には国の革新的技術緊急展開事業に参画し、愛知式全方位開放型囲い罠「おりべえⅡ」や「からまる棒」の開発、特許を取得し、商品化もされて共同研究のメリットを実感しました。

鳥獣害の試験研究は反復がとり難しく、環境、季節、生息密度等に左右され、なかなか思うようなデータが取れずに研究としての大きな成果は残せませんでした。しかし、2019年に全国農業試験場所長会研究功労者表彰をいただき、私の中では鳥獣害研究の一区切りと思った矢先、今度も予想していない異動となったのです。

○最後の職場となった農業振興課野生イノシシ対策室

2018年9月に岐阜県で豚熱（当時は豚コレラ）が発生し、2019年2月に愛知県でも発生、野生イノシシにもまん延し、対策が急務となりました。7月ごろ、農業総合試験場長に呼ばれ、「県庁へ兼務で週に1、2日行ってもらってもいいかもしれません」と言われ、次に「3、4日も」、最後に「5日間ずーとね」となって、当室への辞令をいただきました。8月1日には知事と野生イノシシ対策室の看板掛けを行い、最初で最後の知事とのツーショットも経験しました。今思えば良い思い出ですが、初めての県庁勤務は用語すらわからず、戸惑うばかりでした。私は元来プラス思考で、今までは異動があると「自分はこの仕事に向いているなあ」と考え、楽しんで仕事をしてきましたが、この時だけではプラス思考で考えられず、1年くらいは自己嫌悪の日々をおくりました。

その後、県庁の仕事にも慣れ、優秀な部下達に支えられ、ここでも自由にやらせていただきました。頼りない室長でご迷惑おかけしたことも多々あったと思いますが、みなさんに支えられ助けられてここまでこられたのだと思います。本当に私自身幸せな職場で最後を迎えられることができたと感じております。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。



○捕獲に走ってしまった鳥獣害対策

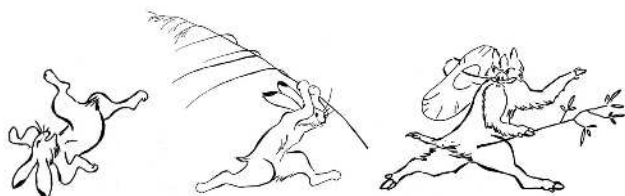
鳥獣害対策は捕獲に走るとうまくいかない、と言われていたのですが、その通りで、私は捕獲に走ってしまい、総合的な取り組みや俯瞰的な見方ができなかったと反省しています。愛知の農業被害額はカラスが1位ですので、今後はぜひ、カラス対策で成果をあげて頂きたいと思います。

○豚熱対策への思い

3年半やってきて豚熱ウイルスの根絶は難しいと痛感しました。愛知県で2020年10月から21年9月まで1年間陽性イノシシが出ていみませんでした。突然豊田で陽性が出ました。その後、第2波となり、今年度は陽性事例が28例となりました。愛知県は全国一豚熱対策を行っていると思っておりますが、捕獲、ワクチン、サーベイランスが三位一体となって今後も進めてほしいと思います。

○難しいイノシシの捕獲

イノシシの捕獲もなかなか思うように進みませんでした。自分で捕る方がよっぽど簡単です。しかし、当室の仕事は渥美や全県でイノシシの生息数を減らす戦略を考えることです。やれること、思いつくことは全てやったつもりですが、なかなか成果が上がりませんでした。イノシシの





繁殖力、警戒心、洞察力には脱帽です。今後のみなさんに期待したいと思います。

○経口ワクチン散布の今後

経口ワクチンの散布個数は 2020 年度には 10 万個であったのに対し、今年度は 6 万 4 千個です。散布個数が減らされる中、同等の効果を得ようとすれば、ワクチンの摂食率を上げるしかありません。イノシシに確実に食べてもらうように家の裏山で誘引剤などいろいろ実験しました。今は農総試が開発したブロック利用法に落ち着きつつありますが、まだ、未完成なのでこれをなんとか完成させていただきたいです。

○いのべえキャラクターやYouTube、Instagramによる情報発信

愛知県野生イノシシ対策室とその仕事にもっと愛着を持ってもらおう、もっとアピールしたい、それにはマスコットキャラクターをつくることだと考えました。10 人いればいろいろな才能を持った人がいます。写真やイラストが得意な人、ビデオの編集が上手な人、ネーミングが得意な人、文章が上手な人、企画が得意な人。みんなで作り上げたキャラクターはみんな大好きです。いのべえグッズも沢山でき、いのべえは室のPRだけでなく、キャラクターのいのべえ愛から、イノシシ対策愛へと変わってきたように思います。そして、室員みんなが職場も仕事も大好きになったのではないかと私は感じています。

当室から技術情報（「知ってとくとくシリーズ」）などを Web ページに載せたり、時あるごとにリーフレットを配布したりしておりますが、なかなか浸透しているという手応えはありませんでした。室から情報発信したものを効率的、効果的にアピールする、広く情報を伝えたいとの思いから YouTube の強化と Instagram を始めました。最初の YouTube で再生回数が急上昇し、SNS の凄さを感じました。忙しい中での SNS 投稿ですが、新しい情報発信のツールの 1 つとして継続して行ってほしいです。

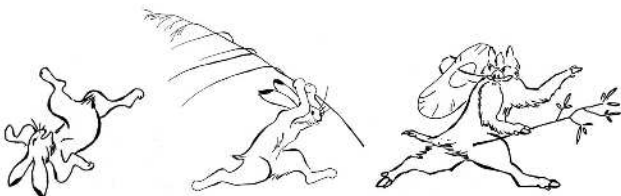
○仕事への思い

年度始めにいつも言っていますが、「仕事は楽しくやる」というのが私のモットーです。楽しくやるには、仕事を好きになることです。「好きこそものの上手なれ」とあるように、好きならどんどん進めようと思い、改良、発展させようと考えます。では、どうしたら、好きになるか、興味を持つか、と考えると、まずは本物に触れること、現場を知ること、実態を理解することではないでしょうか。県庁だからといって机に座っている必要はありません。イノシシを見たこともない、知らない人に、イノシシの対策ができると思いません。まずは、本物のイノシシを見てもらおうと思っていた矢先に次のような出来事がありました。経口ワクチン散布の下見に行った時に、罠に捕まっていたイノシシを見て、室員の一人が「初めてイノシシ見たー」と興奮して写真を撮っていました。それを見た猟師が一言「情けないなあ」と独り言を言ったのを私は聞いてしまったのです。「これではやっぱりいかなあ、本物に接しないと」と思い、シカ・イノシシのと殺・解体体験を土日に始めました。

○「チームいのべえ」による週末のシカ・イノシシと殺・解体体験

嫌な職場に毎日通うことほど辛いものはないですね。「職場に行きたくないなあ」と思いながら出勤していても仕事ははかどりません。毎朝、「今日も仕事頑張るぞー！」って思って出勤してもらいたいです。それには職場の雰囲気も大切、また、信頼関係が大切だと思っています。

愛知県農業水産局農政部
農業振興課野生イノシシ対策室
お問い合わせ Tel.052-954-6726





信頼関係がないと、思いつき議論できません、言いたいことが言えません。信頼関係を築くには、意思の疎通が大切です。無駄なおしゃべりもそれなりに必要です。共通の話題づくりも必要です。信頼関係の構築にイノシシ・シカのと殺・解体体験が大変役立ったと思っています。大きなイノシシやシカをと殺し解体する時は大きなナイフを使いますし、危険で大変な作業です。みんなで力を合わせないとできません。信頼関係を築くにはこのと殺解体はバッチリな作業です。捕った獲物はジビエとして美味しい料理となります。ここで、命の大切さを学び、それぞれ調理も工夫します。低温調理が良いとか、カツが良いとか、共通の話題ができました。また、罨免許の取得も必要と考えるようになってきて、狩猟免許の勉強をしますので自ずと法令、鳥獣に関する知識、猟具に関する知識が身に付きます。有害捕獲や狩猟者登録の体験もできます(当室は11人中7人が狩猟免許所持者)。私自身田舎暮らしをしたからこそ出来たことですが、自宅周辺で有害捕獲、狩猟を行い、週末にもかかわらず、参加してくれた皆さんに感謝するとともに、捕獲やと殺、ジビエと当室らしい共通の体験、話題、信頼関係を築くことが出来たと思います。

2021年度の冬にはこれまで培った技術と団結力で愛知県農業総合試験場のイノシシ捕獲を行いました。毎晩遅くまで真っ暗な作業小屋のストーブの周りでカップラーメンを食べながらモニターを見て捕獲待機し、最終的には5頭の捕獲に成功しました。生け捕り、採血、採材、解体と一連の流れを室員全員で体験する事が出来、益々「チームいのべえ」の技術力が向上しました。大変なことでしたが、「チームいのべえイノシシ捕獲大作戦全記録」というドキュメンタリーが出来たほど楽しい思い出です。

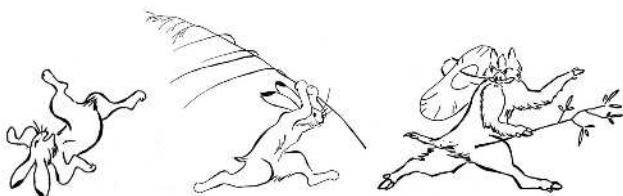
○自分が良いと思うことは、どんどん進めよう

担当者は専門家(専門家になるように努める)なので、担当者(専門家)が良いと思うことはどんどん進めてほしいと思います。担当者がダメだと思うことは、私も同様に良くないと思っています。前例を踏襲するだけに留まらず、自分に自信を持って、自分が良いと思うことは、上司と相談しながらどんどん進める、もっと自分の思いをアピールして仕事に活かしていただきたいです。

○おわりに

退職後は、有害鳥獣捕獲者として、地域に微力ながら貢献していきたいと考えています。要望があれば、わな研修のお手伝いくらいはできる範囲で協力させていただきたいと思っています。

最後に、13年間にわたり恵まれた職場環境や室員、関係諸氏に囲まれて幸せに過ごせたことに深く感謝すると共に、イノ対室、鳥獣害対策、豚熱対策の益々の進展と皆様方のご多幸を心よりお祈りして、この稿を締めくくりたいと思います。本当に、ありがとうございました。

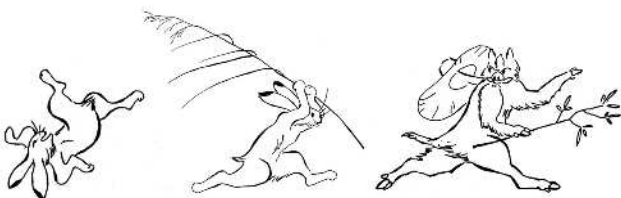




野生イノシシ対策室マスコットキャラクター
いのべえ



これからも
よろしくだべえ！



愛知県農業水産局農政部
農業振興課野生イノシシ対策室
お問い合わせ TEL052-954-6726